

特定非営利活動法人

# 港南たすけあい心

No.71

2021  
8.1

発行責任者 倉持友子 横浜市港南区野庭町 610-2-202 TEL 045-844-6858 FAX 045-844-6857



絵：友納以佐様（97歳）

## もくじ

花に癒されて・移送メンバー紹介	2
コロナ禍とスペイン風邪	3
私の失敗よもやま話	4
ご利用者さまの俳句・新人紹介	5
ご利用者さま紹介	6
コミュニティルームここ	7
活動状況 / 編集後記	8

# 花に癒されて

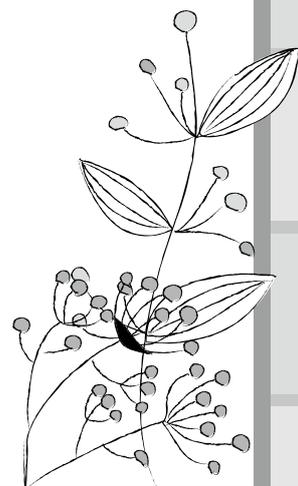
✿ 理事長 倉持 友子

令和3年度第21回定期総会は新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、やむを得ず昨年に続き書面表決となりました。感染症対策を最優先にさまざまな活動が手探りの1年間でした。体調管理には特に注意を払い毎朝事務所へ体温報告、定例会は三密を避けて2部制で開催。講師を招いて行っていた研修会も研修資料や冊子で個々に学び、外部会議はZoom会議で参加等々試行錯誤です。

このように、なるべく人と人との接触を避けなければならない状況の中ではありましたが、利用者さまへ必要な支援の継続ができたことが何より幸いに思います。

たすけあい心の事務所には、利用者さまから頂いた花やメンバーたちが自宅の庭で咲いている花々を持ち寄って飾ってくれています。気持ちが明るくなり癒されています。来年の桜は皆で一緒に見上げられることを願って、コロナ禍の波を前向きに乗り越えていけるよう今年度も知恵を出し合いながら取り組んでいきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願い致します。



## 移送チーム紹介 (福祉移送資格あり)

高齢者・障がい者の通院や通学通所の送迎で活躍中！  
安全運転と介助で外出を支えています。  
現在 社用車は「アイちゃん」一台でフル活動。  
新しい車をゲットするために皆様のお知恵拝借

気持ちに  
ゆとりを持って  
おでかけサポートします

倉持



思いやり  
車に乗せて運びます



湯田

睡眠とり安全運転で対応します



宮古



伊藤

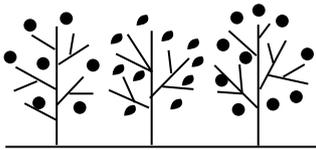
前後左右 指差し確認



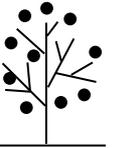
相澤

移送立ち上げて  
8年





# コロナ禍とスペイン風邪



✿ 土屋 敏子 (メンバー)

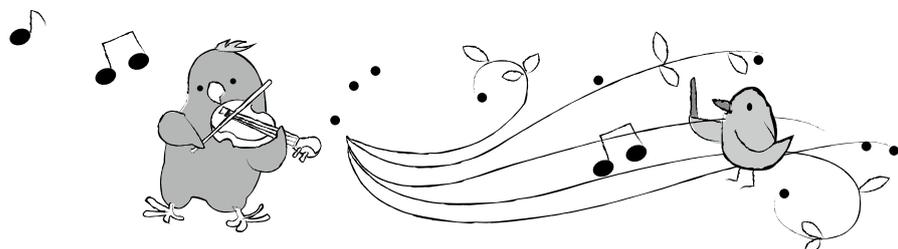
コロナ禍になり、思い浮かんだのは、大正2年(1913)生まれの亡父の家族(母、姉、赤ん坊)の3人もが、田舎(和歌山県)で、スペイン風邪で亡くなったと、伝え聞いていたことだった。その頃の時代背景などを知りたく、本「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ人類とウイルスの第一次世界戦争」速水融<sup>あきら</sup>著を読んだ。

時期は、1918年秋～1919年春が前流行、1919年暮れ～1920春後流行。ウイルスの変異によって致死率が高まり、世界の死者は4000万人(第一次大戦の死者の4倍)。国内では、内地45万人と外地(朝鮮、台湾が植民地)を合わせて、74万人。神奈川県に限ると、人口130万人余りの内、8000人余り。当時の軍艦「矢矧」<sup>やはぎ</sup>の資料が具体的で興味深い。大正6(1917)年2月呉出港。大正8年1月末呉帰投までの2年間。オーストラリア、ニュージーランド海域を航海、各地を訪問。シンガポールに基地があり、大正7年11月乗組員上陸。28日までに10名に風邪の症状、12月4日までに306名に増、乗組員469名の約65%。同12日、死亡累計35名。

当時の人々にとっては、まさに「新型インフルエンザ」であったが、日本政府が、流感が伝染病であると断定したのは、1920年3月であったそうだ。それから100年余りの歳月を経て、今は医学の進歩と有り余る情報によって、個人の病気への向き合い方が変わり、無防備ではなくなった。しかし、ワクチン接種の混乱からも、私たちの不安はぬぐえない状況が続いている。

利用者さんにとっては、元々の持病があり、また、今までさまざまな困難に遭遇されてきた上にコロナの問題が加わりなおさらのことだと思う。ヘルパーとして訪問するたびに、そのことを感じている。

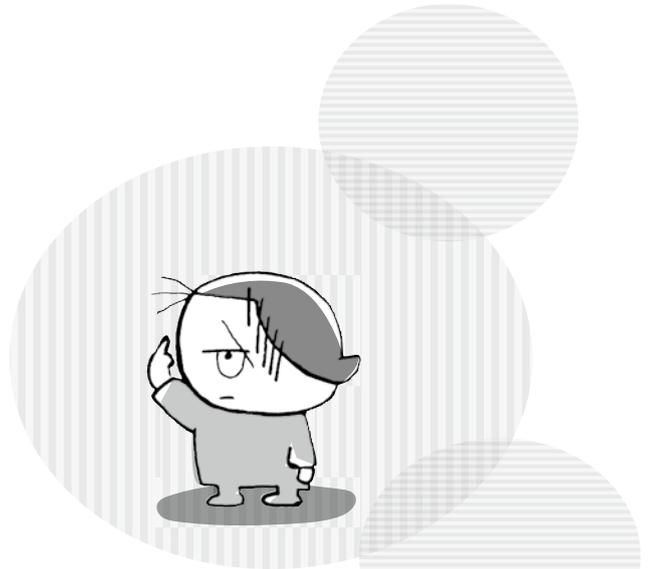
さて、100年前の時代を知るにつれ、私が父に大事にされてきたのは、父が、人の命のはかなさを子どもの頃から身に染みて体験してきたから特別だったのかも知れない、との思いを抱いた。折しも、テレビで、ヴァイオリニストが、コロナ終息への願いを込めて、「勝利を我等に」(ご存じでしょうか、50年くらい前に流行)の曲を奏でていた。この会報が出る頃には、本当にそうあって欲しいと切に願う。



マンガの作画で、落ち込んだ時や青ざめた時に額に黒い縦線が入る表現がありますね。まさにアレです。あまり経験したくない状況です。10年以上前のことで今だに覚えているとはなんとしつこいと思われるかもしれませんが……。

## その1

寝たきりの奥様をご主人が介護されているご家庭でした。奥様の食事介助、おむつ交換、リハビリのお手伝いなどで2時間ほどの内容でした。昔は2時間3時間のワークが普通にあつたのです。ベッドに寝たきりの奥様をのぞき込むような感じで付き添っていました。その間ご主人もそばに居てお話しされていました。ある時奥様が言われました。「いいわねえ、あなたお髪を三色に染めているのね」その時私は生え際の白髪とその先の黒色と三か月前に染めた毛先の茶色とまさに三色状態でした。にこにこ顔の奥様の横でフォローできなくて固まってしまったご主人の顔を忘れることができません。



## その2

二世帯住宅でお母さまが1階に住んでいました。2月も中ごろで低いタンスの上に雛人形のお内裏様が飾ってありました。娘さんが飾ってくださったのでしょうか。

拭き掃除をしながらお姫様を片手で持ち上げたところ、ゴロンと音を立ててきれいなお顔が畳に落ちました。左手には首なしの十二ひとえが……。首を拾って娘さんにお詫びに行きました。「あら、首が折れたから乗せといたのよ」「……」

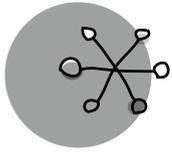


## その3

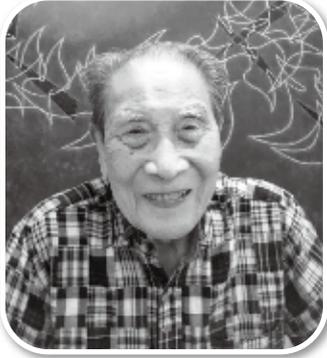
娘さんの依頼で施設に入所しているお母様に面会し、おしゃべりしておやつを介助する自費のお仕事でした。パーキンソン病が進行し表情や会話は乏しかったのですが、長いお付き合いなので田舎の母に会いに行くような気持で毎週通っていました。

おやつは行きがけに私が買っていきます。プリンやどら焼き、季節のお饅頭などです。その日はミニアンパンを買いました。15時ころフロアの入口で施設の方に声をかけ、部屋に入りおしゃべりしながらベットをギャッチアップして「ジャーン。今日はアンパンですよ」と袋から出し少しづつちぎってお口に入れました。ゆっくり噛んで飲み込みを確認してから次を口に入れます。何度目かの時、食べ方がひどくゆっくりです。だんだんと目を見開いてくるのです。あっと思い、フロアの職員室にとんで知らせると看護師さんが吸引器を持って走ってきました。何とか事なきを得ましたがひどく叱責されてしょんぼり帰宅し担当者に報告しました。後から解ったのですが嚥下障害のため施設では十日ほど前から流動食に切り替えていたそうです。

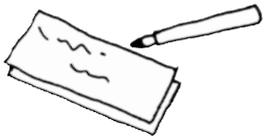
情報の共有の大切さを身をもって知ったのでした。



## ご利用者さまの俳句



荒井吉一さん  
大正 10 年生まれ  
9 月で 100 歳です  
75 歳から俳句を始めました



※考…亡くなった父親

団扇の手止めぬパズルの解けぬまま

※考の帯しめて衣を更えにけり

父の日の胡座に曾孫抱く奢りかな

人癸ちし石にぬくもり秋の風

酔い醒めや反りのよろしき胡瓜啣む

終戦日 モールス符号 暗誦す

## 新人紹介

介護は未経験で、7月に介護職員初任者研修の資格取得を目指し、現在学校に通っています。私は「手作りおやつ工房とさか」という小さな店をしています。訪問介護の仕事をしたと思ったのは、たすけあい心のメンバーがお客様としていらして、介護の人材不足で困っていると聞いたのがきっかけです。

実は約5年前、私は体調を崩してひきこもった経験があります。趣味のお菓子作りが回復のきっかけになり、「自分が元気でいて人の役に立てるように」と家族の支えがあって開業することができました。開業当初は外出が難しい状態だったので、地域の方が足を運んで下さり、「おいしい」と笑顔になって下さる姿はとても励みになりました。自身の経験から、会いに来てくれる人、気にかけてくれる人がいることは生きる力になる、困りごとがあっても少し助けがあれば人は自分の力を発揮することができる、と感じています。

たくさんの人に支えられ続けてこられたので、今度は私も誰かの力になりたいと工房ではさまざまな取り組みをしてきました。そして今度は、私が地域の方のところに出かけていき、少しでも力になればという気持ちです。

お一人お一人と出会い、その方の日常に寄り添いお手伝いさせていただく訪問介護の仕事に今からワクワクしています。どうぞよろしくお願いいたします。

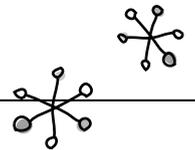


登坂 真代





## ご利用者さま紹介



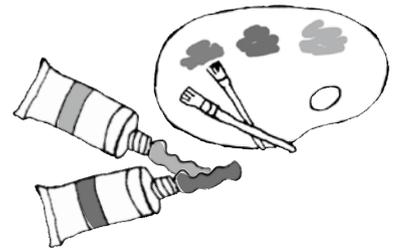
平野 <sup>ごうびん</sup>剛敏様

昭和18年1月生まれ(78歳) 神奈川県出身



野庭地域ケアプラザ1階に展示しています。年2~3回、作品の入れ替えをしています。皆さん気楽に足を運んで下さい。

食事・睡眠・風呂・散歩以外は油絵を描いています。大学卒業後29歳で結婚、2人でヨーロッパ各地で絵を描いて生活(スペインが長い)。現在は野庭団地在住。上の写真は、作品「トレド(スペインの町)」を制作中。7月上旬「現代かながわ美術小品展」に出展しました。



佐藤 <sup>ひふこ</sup>一二子様

昭和5年6月生まれ(91歳)  
宮城県出身

編み物が大好きな佐藤一二子様。こたつがけカバーや玄関マット他、これまで手掛けられた作品は数知れず。最近では、レースの敷物を毎日朝から晩まで編み物に邁進される努力家です。田舎の親戚に送られて大変喜ばれたそうです。たすけあい心の事務所でも使わせてもらっています。

直径17cm程の敷物を糸の色合いにも工夫し、2,000枚以上も編まれました。

息子さんが買って来られる糸で、毎日レース編みを楽しまれていらっしゃいます。





## ～ここ便り～

影山 豊子

ちょうど1年前の広報に「ここ便り」を書きました。昨年の5月末、緊急事態宣言が解除されても感染症の危険は続くと予測しましたが、予想通り4度目の緊急事態宣言が各地に出されました。

神奈川県は幸い、まん延防止等措置として若干ゆるめの規制ですが、人との接触を恐れる気持ちは変わりません。



★ 時間を短縮して営業中 ★

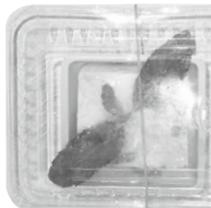
その中で、スタッフはそれぞれの選択をしました。

月曜日の手芸、水曜日の体操、金曜日の書道教室や寺子屋は時間を短縮し、提供するの飲み物だけ、水曜のランチはお弁当を持ち帰る方式にしました。木曜日のランチは、ランチを目的に集まっていたので、飲食と会話は最も感染のリスクがあるということで中止にしました。

★ おしゃべりは控えめに手を動かして(クレイアート)



★ 気持ちのこもった作品が並びました ★

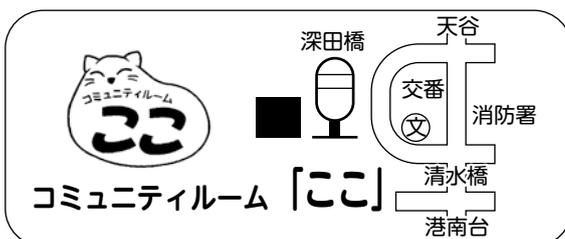


★ おもちかえりのお弁当 ★

それでも短い時間でも集い・学び合う楽しみを求めて利用者の方々は「うれしい～」といって遊びに来てくれます。

ボランティアの方は月に2回映画会を開催して下さっています(鑑賞するだけなので接触は最小限です)。書道教室では例年通り作品展を開催しました。

あなたとわたし、みんなの居場所  
～コミュニティルームココ～は  
頑張っています。



土・日・祭日・夏休み・年末年始のお休みあり

お問い合わせ・お申し込みは **TEL842-1755**



# 港南たすけあい心の活動状況

	1月				2月				3月			
	介	支	オ	子	介	支	オ	子	介	支	オ	子
利用者数	50+29	22	25	1	50+40	21	23	1	49+40	22	28	3
活動時間 (内時間外)	626 (155)	109.5 (15)	97 (12)	30 (6)	661 (142)	109 (29)	73.5 (7)	16 (0)	702.5 (144)	122 (20.5)	86.5 (5)	35 (1.5)
活動ワーカー数	33				33				33			

	4月				5月				6月			
	介	支	オ	子	介	支	オ	子	介	支	オ	子
利用者数	52+42	21	21	3	52+43	21	20	1	51+41	22	31	1
活動時間 (内時間外)	708 (173)	101.5 (14)	91.5 (9.5)	24 (0)	660 (208)	105.5 (30)	84.5 (15)	14 (0)	651.5 (120.5)	137 (21)	99.5 (9)	19 (0)
活動ワーカー数	33				33				32			

## 居宅介護支援利用者数 (ケアマネ利用者数) (要介護人数 + 要支援人数)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
34+35	34+36	32+37	34+37	34+37	34+37

介 介護保険 (要介護 利用者) + (要支援 利用者)  
 支 障害者居宅介護 外出介護  
 オ オレンジチケット (自費サービス)  
 子 心チケット (横浜市産前産後ヘルパー・子育て支援など)

登録ワーカー数 ..... 44名  
 介護保険利用者 ..... 92名  
 居宅介護支援利用者 ..... 71名  
 横浜市委託事業利用者 ..... 0名  
 障害者自立支援制度利用者 22名  
 賛助会員 ..... 26名  
 2021年6月30日現在

## 賛助会員



稲葉幾代様  
 笹井真美様

匿名希望 1名

## 編集後記

私が楽しみにしていることのひとつに絵本の読み聞かせがあります。それはわが子が通う小学校の朝の時間10分間で絵本を読むボランティアサークルです。1年生の時から活動がスタートし今まで継続していましたが、去年はコロナ感染症蔓延のため、活動はできず、学校行事もことごとく中止となってしまうことが、今年は感染症対策をしっかりと行うことでようやく嬉し恥ずかし活動が再開されました。

マスクをしながら声を張って読んでいくことは息苦しくてとても大変です。低学年は何を読んでもすぐ反応が返ってきて、笑ったり質問してきたり、こちらが楽しくなってしまう。それが高学年になると何を讀んだらよいのかがわからなくなる。シーンと静まり返り子どもたちの真剣なまなざしが心に突き刺さりります。

今年初めに選んだ絵本は「世界で一番貧しい大統領のスピーチ」という南米ウルグアイの大統領の演説。その中で『貧しいとは少ししか持っていないことではなく無限に欲があり、いくらあっても満足しないことである』というメッセージに「幸せとは何か?」と子どもと共に考えさせられます。

子どもたちはもう6年生。卒業までの間にあとどのくらい絵本を読むことができるかな? 絵本の読み聞かせのリレーをつなぐ部になれるのがとてもうれしいです。そして、朝の忙しい仕事の時間にこのような私の活動を見守ってくれるたすけあい心に感謝しています。

(寺原)

